

米 中間選挙結果は予想通りか。市場の関心は月末の米中会談、露ゲートへ

■ 米中間選挙は概ね大勢判明

11月6日、米中間選挙は日本時間7日午前中に全米各地での投票が概ね終了しました。本稿執筆時点（7日14時）ではまだ未確定ながら、各種報道から大勢が判明しつつあります（最終結果は日本時間7日夜ごろ判明）。

■ 速報では下院は民主党、上院は共和党勝利

政権与党の敗北というジンクスは今回も有効のようです。日本時間7日14時現在、上院は与党共和党が過半数議席を確実に、一方下院は野党民主党が過半数議席を獲得するのがほぼ確実な情勢です（図1）。予想通りの内容となる公算高く、日本の日中時間帯でも取引されるミニS&P500先物（シカゴ・マーカントイル取引所）は前日比小幅高、ドル円も\$1=113円前半で落ち着いています。

■ 米中貿易交渉ディールを早期に纏め

敗北の余韻消したい

「Keep America Great（偉大な米国のままに）」、を声高に叫び選挙戦を締め括ったトランプ大統領、今回の敗北を受け減税や国境の壁といった内政面の公約実現は難しくなりました。ならば外交面で得点を稼ぎたいところですが、既存の外交政策はいずれも解決に時間を要します（図2）。このため、月末に控える米中首脳会談での貿易交渉ディールを早期に成立させ、選挙戦敗北の余韻を断ち切りたいとのインセンティブは高まったとみています。但し、早期に成立させたい理由は他にもあります。

■ 米中首脳会談の前に進展あるか

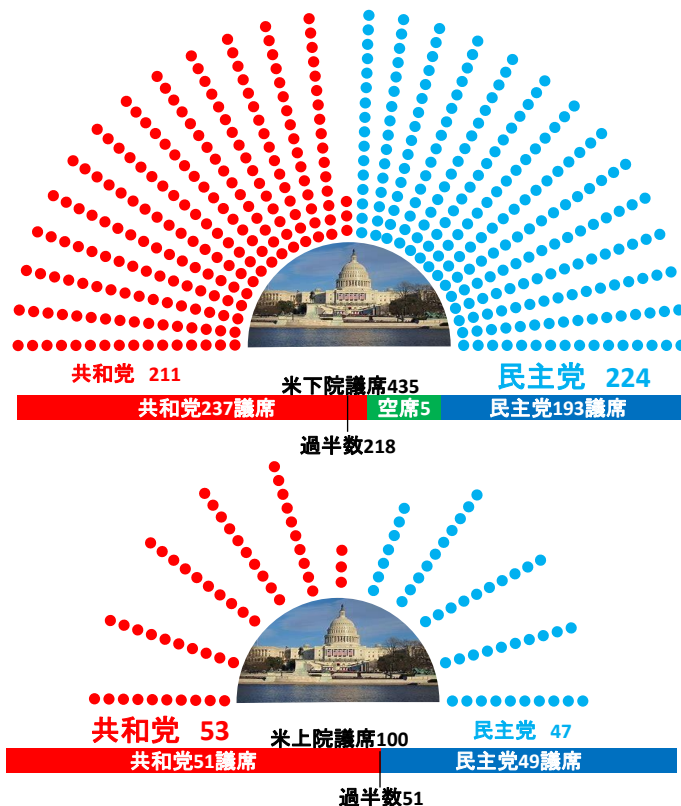
静かなる捜査官ロバート・モラー氏

選挙後の最大の政治的波乱材料が露ゲート（2016年の大統領選でのロシアの介入）、捜査を指揮するロバート・モラー特別検察官の動向です。同検察官は選挙結果を待って捜査を公表するとの声も聞こえます。選挙戦当時、トランプ陣営の選対本部長だったポール・マナフォート氏、長年、私設弁護士として大統領の表裏を知るマイケル・コーエン氏ら主要な元側近は既に起訴、司法取引に応じている模様です。推察の域は出ないものの、大統領が何らかの形でロシアの選挙介入に関与した証拠が示される可能性が高いとみています。仮にそうなれば、下院を制した民主党は早急に大統領を議会に召喚、真相に迫るとみられます。下院の会期は年内12月13日迄、金融市場ではまだ波乱がありそうです。（徳岡）

【図1】 下院は野党民主党が奪還

上院は与党共和党が死守 - 事前予想通りか

米下院(上)と上院(下)改選後議席数の予想
(議席数は日本時間11月7日午後14時現在)



注) 予想は当社経済調査室による。棒グラフは改選前議席数。

出所) 各種報道より当社経済調査室作成

【図2】 残り2年は得点が稼ぎづらいトランプ大統領

対中貿易交渉の早期合意インセンティブは高まる

米トランプ政権 主な公約の進捗



注) ×印は今後実現が難しいことを示す。

出所) 各種報道より当社経済調査室作成

本資料に関してご留意頂きたい事項

- 本資料は、投資環境等に関する情報提供のために三菱UFJ国際投信が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。販売会社が投資勧誘に使用することを想定して作成したものではありません。
- 本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。
- 各ページのグラフ・データ等は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の三菱UFJ国際投信戦略運用部経済調査室の見解です。また、三菱UFJ国際投信が設定・運用する各ファンドにおける投資判断がこれらの見解に基づくものとは限りません。



三菱UFJ国際投信

三菱UFJ国際投信株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号
加入協会：一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会